

# 宮本氏、復興加速訴え

## 遠藤氏、継続の主張届かず

富岡町長選  
戦いの跡

平成九年以来十六年ぶりの選挙戦となった富岡町長選は、新人の宮本皓一氏(56)が東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの復興加速を訴え、現職の壁を破った。

宮本氏は現職の遠藤勝也氏(70)より約二カ月早く立候補を表明し、準備を進めてきた。帰還を目指す町民はもちろん、帰還しないと判断した町民に対する

支援も約束した。損害賠償の充実など、町民の生活再建に向けた環境を整えること主張し、支持を集めた。「新しい風」をキャッチフレーズに掲げ、現町政への批判票を取り込んだ。

遠藤氏は四期十六年の実績を強調し、町議会副議長ら約半数の町議の支持を得て戦った。復興を加速させるため、取り組みを継続させることが必要だと

訴えた。しかし、現状に不満を持つ町民もあり、票の上積みができなかった。(郡山本社 報道部兼浪江支局・横山 雄介)

### 災害廃棄物 搬入判断に注目

富岡町長選で初当選した宮本皓一氏は、国から提案されている管理型最終処分場への災害廃棄物の搬入についてどう判断するか、注

目される。宮本氏は一日にいわき市で開かれた町長選

の公開討論会で、「(搬入を)拒否できるのであれば拒否したいのが本音」と述べ、搬入に慎重な姿勢を示した。ただ、「国の説明を聞き、町議会や町民と相談しながら決めていきたい」と続けており、今後どう対応するかは不透明だ。現職の遠藤勝也氏は

町民の生活再建期待に応えたい。宮本皓一氏の話 新たな風を町政に求めた

町民の期待に全力で応える。復興は遅れている。住民の声をよく聞き、帰還する、しないにかかわらず生活再建を支援する。

支持者大きな  
歓声上げ万歳

いわき市四倉町にある宮本皓一氏の選挙事務所には午後九時ごろ、当選を知らせる連絡が入り、支持者が大

きな歓声を上げた。宮本氏は塚野芳美選対本部長らと万歳して初当選を祝い、幸恵夫人と共に花束を受け取った。

初当選を祝い万歳する宮本氏(右から2人目)。左隣は幸恵夫人

町内一律の賠償が実現しない限り、災害廃棄物の町内処分など政府

からの提案は受け入れない考えを表明していた。ほぼ一律賠償が実

現したことで災害廃棄物の搬入が進む可能性もあった。